

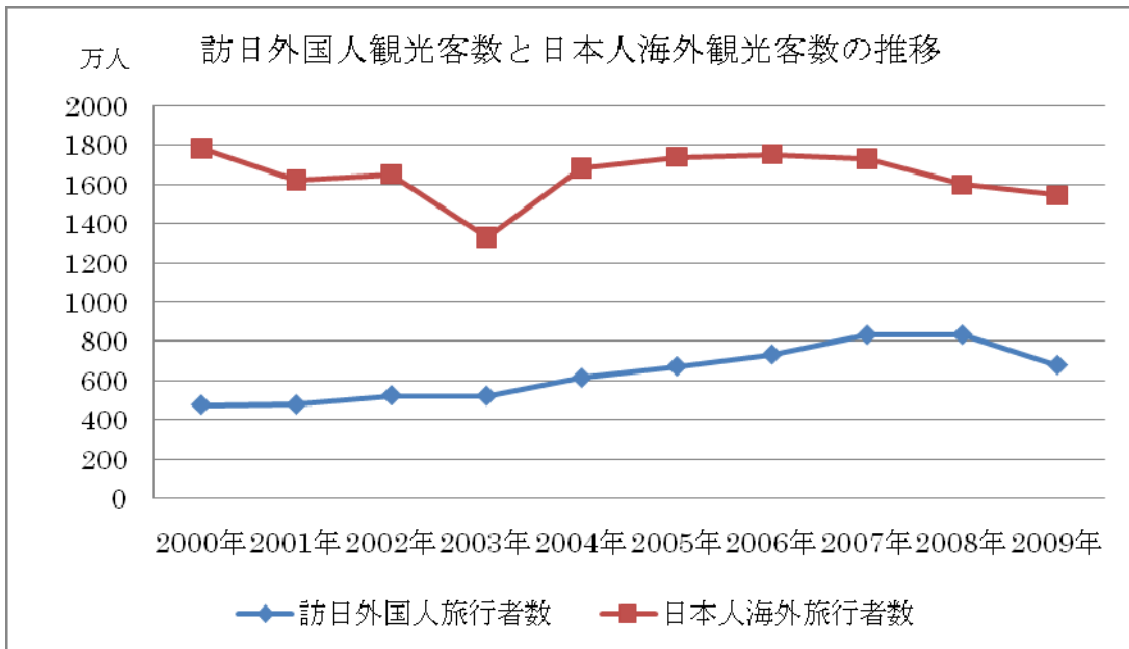
ANNEX

(1) 訪日外国人観光客数と日本人海外観光客数

2003年4月から始まったビジット・ジャパン・キャンペーン以降、海外から日本を訪れる観光客の数は、2003年の521万人から順調な増加をみせ、2008年には835万人（世界第26位、アジア第6位）にのぼった。しかし、同年秋のリーマン・ショックを契機とした世界同時不況や円高に加え、新型インフルエンザの流行等により、2009年の訪日外国人観光客数は679万人に激減した。

日本人の海外観光客数は、2000年に1,782万人、2008年に1,599万人（世界第13位、アジア第2位）、2009年に1,545万人と10年間ほぼ横ばい状態にある。

【図1】



国際観光客到着数（2008年）

【表1】

	国名	観光客数（万人）		国名	観光客数（万人）
1	フランス	7,930	8	トルコ	2,499
2	米国	5,803	9	ドイツ	2,489
3	スペイン	5,732	10	ロシア	2,368
4	中国	5,305	12	マレーシア	2,205
5	イタリア	4,273	15	香港	1,732
6	英国	3,019	18	タイ	1,458
7	ウクライナ	2,539	26	日本	835

（出所：『国際観光白書 2009』より作成）

国際観光収入（2008年）

【表2】

	国名	観光収入 （百万ドル）		国名	観光収入 （百万ドル）
1	米国	110,090	8	豪州	24,660
2	スペイン	61,628	9	トルコ	21,951
3	フランス	55,595	10	オーストリア	21,791
4	イタリア	45,727	11	タイ	17,651
5	中国	40,834	13	香港	15,300
6	ドイツ	40,018	14	マレーシア	15,277
7	英国	36,208	28	日本	10,821

（出所：『国際観光白書 2009』より作成）

(2) 観光産業の経済規模

WTTC (World Travel & Tourism Council ; 世界旅行産業会議) によると、2009年の世界の観光産業の経済規模は5兆4,740億ドルで、全GDPの9.4%を占める見込みである。また、雇用者数は2億1,981万人で、全雇用者数の7.6%を占める見込みである。一方、日本の観光産業が、GDP、全雇用者数に占める割合はそれぞれ5.3%、6.7%である。

世界の観光産業の経済規模 (2009年予測値) 【表3】

	観光産業GDP		観光産業による雇用	
	金額 (10億ドル)	GDP全体に占める割合 (%)	人数 (千人)	雇用者全体に占める割合 (%)
世界計	5,474.0	9.4	219,810	7.6
北東アジア	1,053.7	9.4	70,509	8.0
東南アジア	155.1	10.1	23,230	8.5
中東	158.1	9.6	5,130	9.0
EU諸国	1,667.5	9.9	23,002	10.4
北米	1,601.1	9.6	21,129	10.4
アフリカ	128.8	—	14,388	—

(出所：『国際観光白書 2009』より作成)

日本の観光産業の経済規模 【表4】

観光産業GDP		観光産業による雇用	
金額 (兆円)	GDP全体に占める割合 (%、2008年度)	人数 (万人)	雇用者全体に占める割合 (%、2007年度)
26.5	5.3	430	6.7

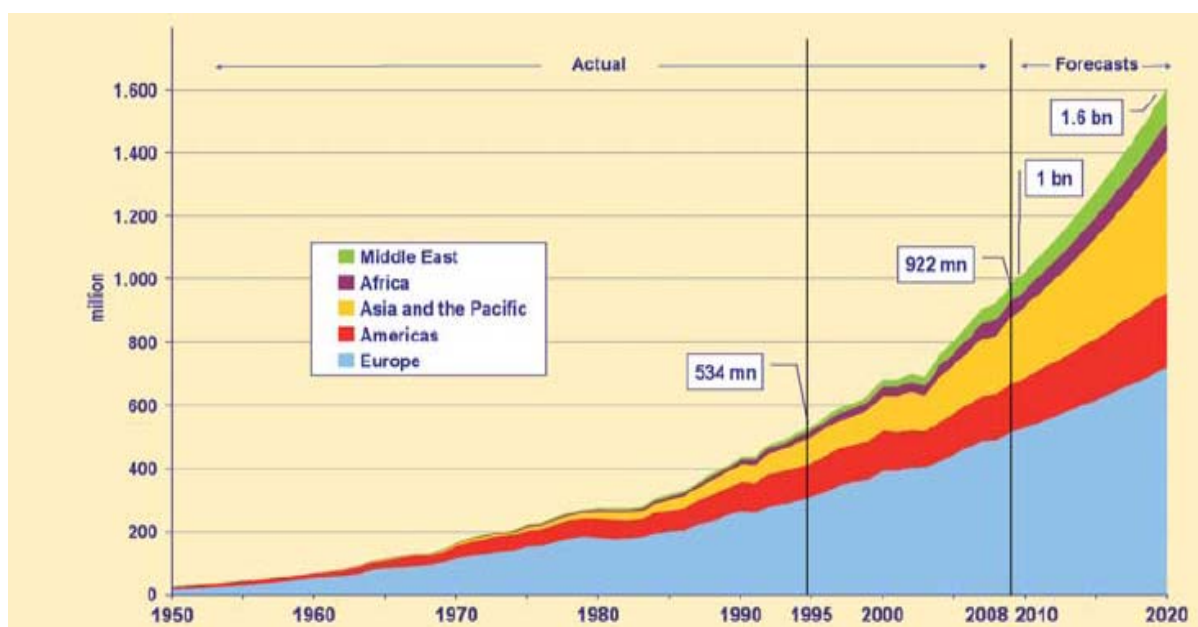
(出所：『「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究」(2008年度版)』より作成)

また、WTTCは、2019年までに、世界の観光産業の経済規模は10兆4,780億ドルと約2倍に上昇、GDP全体に占める割合は9.5%に上昇、観光産業による雇用者数は2億7,568万人、全雇用者に占める割合は8.4%に上昇すると予測している。また、今後10年間、観光産業は年平均4%の伸び率を予測している。

WTO (World Tourism Organization ; 世界観光機構) は、世界の観光客数は、2010年に10億人、2016年に16億人に達すると予測している。

国際観光客到着数 (1950-2020)

【図2】



(出所 : 『Tourism Highlights 2009 Edition』 WTO)

(3) 日本の観光の潜在力

日本の観光入込客数や経済規模は、諸外国と比べて未だ小さいが、今後、世界の観光客数が急速に伸びる見込みであることから、発展の余地は大きい。

また、国民の余暇活動への潜在需要（＝「参加希望率」－「参加率」；今後期待される需要の大きさ）をみると、その第1位、第2位がそれぞれ「海外旅行」「国内観光旅行」であることから、観光に対する潜在需要は高く、今後の成長が見込まれる。

余暇活動の潜在需要（2008年）

【表5】

	全体	男性	女性
1位	海外旅行	海外旅行	海外旅行
2位	国内観光旅行	国内観光旅行	国内観光旅行
3位	音楽会、コンサート	スポーツ観戦	音楽会、コンサート

（出所：『レジャー白書 2009』より作成）